

平成 26 年度 東が丘・立川看護学部の授業評価結果に対する考察

副学長 学部長 山西 文子

副学長 草間 朋子

- 授業評価を行う対象学生数は延べ 12,915 人で、評価対象になった科目数は 119 科目である。授業アンケートへの回答率は、95.7%と過去 3 年間の中ではもっとも高い値が得られており、授業評価の重要性に対する学生の意識が高まりつつあることを示している。
- 平成 26 年度から、看護学部の 1 学年の定員を 100 名から 200 名に増員し、「臨床看護学コース」と「災害看護学コース」の 2 つのコースに分けて、教育を行っている。指定規則に定められた看護の基礎教育に関連した科目については 2 つのコースは全く同じカリキュラムで講義・演習・実習を展開することとし、3 年次生から、それぞれのコースに特徴的な科目を盛り込むことにしている。本学部では、1 年次生から看護学実習を取り入れている点が特徴的であり、主たる実習施設は、臨床看護学コースは東京医療センターに、災害看護学コースは災害医療センターにお願いしている。災害看護学コースの授業、演習は平成 28 年度までは、国立病院機構キャンパスで行うことにしているが、実習については初年度（平成 26 年度）から災害医療センターおよび村山医療センターで実施することとし、看護学を学ぶスタートラインに立った学生たちを温かく迎え入れていただいた。東が丘にある国立病院機構キャンパスから距離の離れた実習場まで通い続けるという不便さにも拘わらず、学生からは苦情もなく、実習に対する高い評価が得られている。
- 「学生としての、自分自身の授業態度について」の全ての評価項目（3 項目）、「授業内容に関する」全ての評価項目（3 項目）、「教員の教え方に関する」全ての評価項目（3 項目）で、「そう思う」「ややそう思う」が 80%以上を占めており、学生は目的をもって積極的に学び、教員も教育に心血を注いでいる姿をうかがい知ることができる。一方、これとは別に行われている「学生生活実態調査」の結果では、1 日当たりの自主学習の時間が想像以上に短いことが明らかにされており、tomorrow's Nurse を目指す学生にはもう少し長い（せめて 1 日 2 時間以上）自主学習の習慣を 1 年次から身につけておくように努力してほしい。
- 自由記載の中で実習（基礎体験実習から統合実習まで）に対する学生たちのポジティブな意見が数多くみられ、本学が 1 年次から看護・看護学に関する専門的な授業科目・実習を取り入れていることが、学生たちの看護学を学ぶモチベーションを早い時期から高めている結果であり、これが看護師国家試験の高い合格率にも寄与しているものと考えている。
- 授業評価の結果を活用し、改善すべきところは改善し、教職員一同、教育の質の保証・向上に努めていきたい。

以上